

令和3年11月29日

第1回遠野市総合教育会議 会議録

遠 野 市

令和3年度第1回遠野市総合教育会議 会議録

- 1 開催場所 遠野市役所本庁舎 3階大会議室
- 2 開催日時 令和3年11月29日（月） 午後1時30分から午後3時30分まで
- 3 出席状況

○ 出席者

市長 多田 一彦
教育長 菊池 広親
委員 菊池 崇
委員 千田 由美子
委員 菊池 和子
委員 藤山 重理子

○ 職員

教育部長 伊藤 貴行
総務企画部長 鈴木 英呂
経営管理担当部長 菊池 享
子育て応援部長 磯谷 洋子
市民センター所長 新田 順子
多文化共生・本の森特命部長 石田 久男
総務企画部政策担当課長 新田 正宏
総務企画部財政担当課長 海老 寿子
総務企画部管財担当課長 多田 清子
子育て応援部こども政策課長 村上 明洋
教育委員会事務局学校教育課長 佐々木 淳一
学校給食センター所長 菊池 徳明
市民センター生涯学習スポーツ課長 朝倉 優香
市民センター文化課長 宮田 秀一
市民センター文化課こども本の森運営企画室長 佐々木 真奈美
教育委員会事務局小中高連携推進監 澤村 一行

開会・開議 午後1時30分

1 開会

○教育部長

ただ今から令和3年度第1回遠野市総合教育会議を開会いたします。

私は、教育部長の伊藤でございます。本日の会議の進行を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

本日は、市長、教育長、教育委員は、全員出席していただいております。

それでは、はじめに市長からご挨拶をお願いいたします。

2 市長あいさつ

○市長

本日は、私にとって初めての総合教育会議となります。どうぞよろしくお願い致します。教育は、人づくりを進めるうえでとても大事なことであります。子どもたちは、私たち大人が想像できないようなスピード、広がりを持っています。その時、私たちの考えがブレーキとならないようにしたいと私は考えております。どんどん子どもが伸びていける環境をみんなで作っていく。いろいろと国の取り組みもありますが、垣根を越えて進めて行く。みんなでやっていくということが大切だと思います。遠野もみんなで一丸となってやっていく。気づいた点は言い合う。できることはすぐやる。というふうにしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

○教育部長

ありがとうございました。

ここからは遠野市総合教育会議設置要綱の第4条第1項の規定によりまして、市長が議長となりますので会議の進行をよろしく願い致します。それでは、市長お願い致します。

3 報告事項

(1) 高校進学に関する意識調査について

○市長

引き続きまして、進行をいたします。

次第に従い3の報告事項から進めてまいります。「高校進学に関する意識調査について」を担当から説明をお願いします。

○小中高連携推進監

担当の小中高連携推進監の澤村です。

それでは、高校進学に関する意識調査の結果について、報告いたします。この調査は毎年6月に中学2・3年生とその保護者を対象に実施しているもので、今年で6年目となります。

1 ページをご覧ください。3年生とその保護者の6年間の高校進学希望をまとめた棒線グラフになっております。青が市内、オレンジが市外進学希望になります。3年生の状況は、市内希望の割合が53.8%と前年比8.3ポイントの増加となっております。一方、3年生保護者にあつては市内進学希望が55.2%と昨年比9.6ポイントの減という状況になっております。

2 ページです。この6年間の6月時点における3年生の遠野高校及び遠野緑峰高校への進学希望人数の推移をグラフ化したものです。遠野高校への進学希望者がこの6年間で最高でありました平成29年度と同数の78名に増加、遠野緑峰高校も2番目に多い34名に増加しており、総じて今年度は地元進学志向が定着しつつある傾向にあると考えております。

3 ページにつきましては、1 ページと同じく中学2年生とその保護者の状況でございます。後ほどご覧ください。

4 ページをご覧ください。2年時から3年時の生徒及び保護者の進路希望の変化を見たものでございます。生徒においては、市内高校進学希望が昨年2年時の48.2%から3年時には53.8%と5.6ポイントの増加、昨年の12.5ポイントの減少と比較し、市外希望から市内希望へ変化した生徒の増加がみられます。一方保護者においては市内希望が55.2%と前年比での5.1ポイントの減と初めて60%を下回っております。

5 ページをご覧ください。高校選択の基準については、生徒においては「進学実績」、「部活動」を進学先選択の判断基準とする傾向の中、「通学のしやすさ」、「学校の雰囲気」、「将来の仕事」を基準とする新たな傾向が市内高校進学希望者の増加につながっているようであります。一方、保護者にあつては、「本人の意見」を尊重しながらも「通学のしやすさ」も判断基準の上位を占め、経済的負担感を意識した傾向が見られます。

6 ページに進みます。「高校を選択する上で困っていること」では、3年生、保護者ともに「将来就きたい仕事が決まっていない」、「高校のことがよくわからない」が昨年同様上位を占めており、将来就きたい職業のイメージがないまま進学先を選択する傾向が見られます。

7 ページは、「進学させたい高校の情報をよく知らない」保護者が6割もいる状況にあること。「高校の情報を高校生のお父さんから入手する」が28～31%と最も多く、高校生を持つ親の口コミが大きく影響していることを踏まえた対策とともに、高校のホームページや高校説明会の情報提供の仕方にもまだまだ工夫が必要と考えております。

8 ページの保護者の記述解答で多かったもので、「知りたい情報」としては「進学・就職実績、偏差値、学校の魅力・特色や雰囲気」、「カリキュラムや資格取得」、「生徒へのサポート体制」について。「経済的負担感」では、「通学・下宿費用」、「教材費や入学時の初期費用」、「部活動費用」、「食費を含む昼食の費用」などがあるようです。

9 ページのアンケート調査結果を踏まえた課題への対応についてです。「高校に関する生徒保護者への情報提供」においては、「高校生の中学校での出前講座」等の中高生の交流事業や今年度実施しました「保護者向けの高校見学会の開催」など、今後も継続強化してまいります。

将来就きたい職業のイメージがないまま進路決定となっている対策として、現在、市教育研究所「キャリア教育部会」が研究を進めてきた遠野市版キャリアパスポートを活用し

た「ふるさと教育」を柱に、学年に応じた「将来に向けた職業観の醸成」と「進路選択の意識啓発」を図り、小中高校が接続した「新たなキャリア教育」に取り組んでまいります。

10 ページです。「保護者への経済的負担の軽減」については、保護者から好評を得ている通学支援補助金の周知に努めるほか、各種資格取得支援補助金を継続してまいります。また、高校への学校給食の提供と掛かる費用の就学援助費支援等の在り方について、調査検討をさらに進めてまいります。

「高校魅力化支援と地域連携協働体制の推進」では、遠野高校の「新しい遠野物語を創るプロジェクト」や遠野緑峰高校の「農業クラブの各プロジェクト」など、両校の地方創生に関わった貴重な活動をさらに支援してまいります。

市外、県外からの留学生受入体制の充実に向け、首都圏都市部へのPR活動の継続と新たに下宿費支援補助やスポーツ学生寮等の環境充実に向けた検討を進めていきたいと思っております。

令和4年度から市内高校でも「学校運営協議会制度」いわゆるコミュニティスクールがスタートいたします。「遠野市高校魅力化推進協議会」が地域学校協働本部機能を発揮するとともに、地方創生推進交付金を財源に活用しながら高校魅力化サポート事業を展開してまいります。以上、報告といたします。

○市長

ただ今、担当からご説明させていただきましたが、皆さんから何かご質問等ございませんでしょうか。はい、菊池和子委員お願いします。

○菊池和子委員

来年度は、遠野高校とかが学級減にならないようにとの思いが遠野市民としてあります。子どもたちもいろんな選択ができればいいと思いますし子どもたちが学校に通う時にどういうことをやりたいか。不安なところもあると思いますが、学校に行って楽しい勉強がしたいと思うのが一番だと思っています。子どもの満足度もそうですし、親御さんたちが経済的な不安を抱えずに、子どもが学校でのびのびと勉強することができるのが一番なのではないかと思っています。

今、遠野市内の高校で勉強している子どもたちは、学校に行って楽しいとか、がんばることが見つかったとか、親御さんの負担はどうなのかというあたりを詳しく教えていただければありがたいです。

○小中高連携推進監

中学生のアンケート調査等の他に、毎年高校生へのアンケート調査を実施しています。本日の会議には間に合いませんでしたが、内容については分析がほぼ終わっておりまして、現在進学した高校で良かったかという調査項目では、75%以上が良かった、分からないが24%程でその高校を選択して失敗したと感じている生徒が1%台でした。両校の1年生から3年生までの生徒数は合わせて440人になります。その内、この高校に進学して失敗したと感じている生徒がわずか8人という数字ですので、遠野の高校に進学した生徒で自分の通っている高校の満足度は非常に高いと感じているところです。

先日、遠野高校の校長先生から聞いた話では、今年度に入って遠野高校では、プロジェクトで地元について学ぶ、このような取り組みが非常に楽しいということで、そのせいか、不登校に該当する生徒は、まだ出ておらず本年度はゼロだと。そういったことから楽しく高校生活を送っているというようにうかがえます。

それから、親の満足度でいくと通学支援を受けている親御さんからは、通学費用の半額補助は非常にありがたい。釜石、花巻、今年はさらに北上の中学校にも両校の校長と高校のPRに訪問しましたが、それぞれの中学校の校長先生方からも他の地域から遠野に生徒を送り出す際に通学費の半額補助は、非常にありがたい施策を行っているという感想をいただきました。4年前には、下宿する生徒が60人を超えていた時代もありましたが、それが通学補助により、現在下宿している生徒は26人という数になりました。次はアクションプランに掲載されているなかで実施できていない高校への給食導入、保護者の負担感が大きい下宿費用の補助の検討を進めたいというように考えております。

○市長

はい、ありがとうございました。皆さんからその他ございませんか。
千田委員、お願いします。

○千田由美子委員

非常に、プロジェクトが楽しいという話がありましたが、子どもたちにとって楽しいということが一番大切だと聞いていて思いました。

通学補助とか、今後は給食等の検討もしているようですが、市独自の給付型奨学金を設置してもいいのではないかと。貸与型は既にあったと思いますが、コロナにより家計が苦しいご家庭もあるかもしれないので、市独自の給付型を設置してもいいのではないかと思います。それにより優秀な人材には支援する。子どもたちが切磋琢磨することに繋がれば良いと思いました。以上です。

○市長

いかがですか。

○小中高連携推進監

給付型の奨学金は、以前、議会でも取り上げられた経緯があります。ある程度目的を明確にしなければならないこと。給付型には、良い面もあれば難しい面もあるのではないかと感じておりました。

その中で遠野市が行っているものとするれば、遠野市や他の奨学金制度により学生生活を終えて遠野市内に戻り就業された方に対して、奨学金の返済補助を市独自の施策として産業部と連携し進めているところです。そのような形で奨学金等を活用し、外で学び、遠野に戻り、自分が学んだスキルを地元に戻元するといった流れに対して、奨学金の返済を支援するという形で遠野市は対応しているところであります。

給付型については、実施している自治体もあるようですので情報を取り入れて検討する価値はあるかと思いますが、当市においては現在そのような状態です。

○市長

いかがですか。

菊池崇委員お願いします。

○菊池崇委員

今の説明を聞きまして、遠野の高校に通って楽しかったとの回答が75%というのは非常に高い数字だと思いました。また、驚くべきは不登校がないというのがすばらしいと思います。このプラスの要素をアピールすれば、遠野の高校に更に子どもたちが入ってもらえるのではないかと思います。例えば、高校のホームページに掲載し、情報をどんどん発信していくのも良いのではないかと思います。

それから市外から来る生徒は若干減ったという説明も聞きましたが、この調査結果に対応した取組の方向性と市外からも来やすい環境整備を是非よろしくお願ひしたいところです。以上です。

○市長

ありがとうございます。ご意見でよろしいですね。

はい、藤山委員お願いします。

○藤山重理子委員

私も意見になりますが、資料9ページ、高校に関する生徒保護者への情報提供の中で、やはり情報不足という部分がすごく大きな課題に直面していると思います。中学校の保護者を対象に継続的に学校見学会などが行われているということでしたが、平日だと参加できない保護者も一定数あると思うので、開催するにあたりニーズ調査をしたうえで、今後も継続的な実施を希望します。

もう一つは、子どもは直接スマホやタブレットを見る機会が多いなか、子どもが自分から遠野テレビをつけて情報を取りに行くという機会はなかなか無いと思います。現在、給食時間はコロナ対策で黒板の方を向き無言で食べているので、給食時間を活用して高校の公開DVDなどを視聴できる機会を今後検討していただければと思いました。

○市長

ありがとうございます。非常にいいご意見を頂戴しました。皆様のご意見が今後のヒントになると思います。

4 協議事項

(1) 小中学校における学力向上とGIGAスクールの活用について

○市長

進行してよろしいですか。続いて4番の協議および調整事項に入ります。

ここから、総合教育会議ということですので、教育委員の皆さんと子育てに関する施策や課題の共有を目的として進めていきたいと思っております。活発な議論をお願いしたいと思います。

(1)の小中学校における学力向上とGIGAスクール活用について担当から説明願います。

○教育部長

教育部長の伊藤でございます。

(1)の小中学校における学力向上とGIGAスクールの活用についてです。学校教育課の主要政策としまして、教育内容の充実と教育環境の充実ということで総合計画の後期計画にも位置付けているところであります。

今日の会議におきましては、小中学校における学力向上とGIGAスクールの活用というテーマで、この後、学校教育課長から学力及び学習の状況を説明させていただきます。その後、本年3月からGIGAスクールを運営しております活用状況を映像で紹介したいと思います。この内容は10月19日から25日に遠野テレビの特集として、4回シリーズで放送されたものであります。小中学校での活用或いは先生方の研修の状況など4回の構成となっております。御覧になった方も多いかと思いますが、中学校の活用の映像を紹介させていただきます。

それでは、学校教育課長から説明をお願いします。

○学校教育課長

学校教育課長の佐々木です。

それでは、小中学校における学力向上とGIGAスクールの活用についてご説明いたします。最初に出てくるスライドは、皆さんのお手元には印刷物がないものです。

学校教育を語る時、様々な場面で「令和の日本型学校教育」というフレーズを耳にしますが、「令和の日本型学校教育」で注目すべき点は、子どもたち一人一人の「個別最適な学び」を保障するという点です。対照的に、従来から取り組んできた「日本型学校教育」というのは、教室の中で子どもたちが、話し合いやグループ活動を通じて学んでいくという「協働的な学び」であります。この学びの協働性は、日本の教育の強みであり、諸外国からも注目されています。この「協働的な学び」と一人一人に応じた「個別最適な学び」を融合して取り組んでいこうというのが「令和の日本型学校教育」で、平成28年度の中教審の答申で示された後、文部科学省から国の方針として示されました。

この中には、GIGAスクール構想も含まれております。新型コロナの影響により、端末の整備が前倒しで進んできたことはご承知かと思いますが、今このGIGAスクールをどのように活用して、この「令和の日本型学校教育」を実現するのかということが、全国的な課題として取り組まれているところであります。指導の個別化、学習の個性化を図りながら、どのように児童生徒の「主体的に学習に取り組む態度」を育成していくのかという部分がポイントとなります。

それでは、説明します。1つ目は、全国標準学力検査の結果です。スコアをお示しする形の説明になりますが、子どもたちの学力は、この点数だけではないということを、予め

ご理解くださいますようお願いいたします。毎年度、遠野市では、NRTと呼ばれる集団基準準拠検査を行っております。毎年この総合教育会議の場で数値をお示ししております。この調査は、どこかの学校や地域と比較するというのではなく、標準化された問題を解くことにより、毎年度その子どもたちがどれぐらいの力を持っているかを判定できるものとなっています。

また、NRTと併せて、2年に1回知能検査も実施しております。この2つを合わせて集計・分析することで、子どもたちが知能検査で得られた数値に比して、期待されるようなスコアが取れているかどうかということを読み取ることができます。本市のまちづくり指標にも示されておりますのでご覧いただきたいと思っております。上段が小学校の目標偏差値と実数値、下段が中学校になっています。小学校は、令和に入ってからやや落ち込みが見られますが、標準（偏差値50）を超えております。中学校は標準（偏差値50）を目指して頑張っているところですがまだそこに至っておりません。令和2年度は、新型コロナの影響もあり小中学校とも落ち込みが見られましたが、中学校については、回復傾向が見られてきております。

小学校の落ち込みを分析してみますと、社会と理科が偏差値50を下回っています。その一方で、国語と算数については、偏差値50を超えるような取り組みがなされていることが分かりました。市内小学校の学校公開をご覧いただくとわかるのですが、その多くが国語や算数の校内研究を進めています。今後、この研究の成果を社会、理科に実践に生かしていくのが大事であると捉えています。

中学校は、5教科で検査を実施しています。令和2年度に見られた落ち込みは、令和3年度では回復傾向にあります。このような形で各教科とも偏差値50を目指して向上させようと頑張っているところです。

先程申し上げました知能検査と学力検査の相関ですが、横軸が知能検査、縦軸が学力検査となります。知能検査の値から期待できるぐらいの学力を有している子どもたちとそれを超えている子どもたちは、それぞれ、バランスト・アチーバー、オーバー・アチーバーと呼んでいますが、そこにまだ満たない子どもたちについてはアンダー・アチーバーと呼ばれます。例えば、知能が高くてそこに見合うようなスコアが取れなければアンダーアチーバーとなります。この子どもたちがみんな一歩上に行くように個別最適な取り組みを進めてまいります。

これら分析してみますと、小・中学校ともに好ましい状況が維持されていて、小学校は、ほぼ横ばいですが9割近い子どもたちが知能から期待される学力を発揮しています。中学校も平成28年の時には72%だったものが、今は84%もしくは令和に入ってから85%前後をずっと維持していますので回復傾向というふうに見ています。本市では、このように8割を超える子どもたちがこのように取り組んでいるということが分かりました。しかし、アンダーアチーバーとして発揮できていない子どもも10%以上いるということも事実なので、これが今後の課題となります。

それでは、2つ目に、子どもや先生方を対象としたアンケートの結果を説明します。これは、県の学力調査の質問紙調査を活用しています。

子どもの質問紙になります。「授業中課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいると思いますか」という質問に対しては、ご覧のとおり授業において意欲を持ち自ら

も進んで学ぼうとする子どもたちが増えています。毎年度徐々にこの肯定回答が上がってきております。

質問紙の2です。「先生は授業やテストで分からなかったことや理解していないところについて分かるまで教えてくれますか」については、小中とも94%、93%と高い割合ですので、先生がしっかり教えてくれていると感じています。これらの授業の取り組みが好ましい結果として表れています。

それでは、児童生徒の質問紙から見える課題です。「学校の宿題に加え、弱点を克服する学習に取り組んだり発展的な問題に取り組んだりしていますか」という点です。目標値が82%と掲げているのですが74%まで伸びてきてはいますがまだ目標値には届いておりません。中学校も70%を目標値としていますが65%という状況です。ご覧のとおり徐々に改善しておりますが、家庭学習の取組には、改善すべき課題があると認識しています。

学校質問紙の1、先生方の回答をご覧ください。「子供の間違いを認める雰囲気を作ってその中で授業を進めていますか」というものです。これは、積極肯定だけの学校数になります。目標値については、ある程度達成している、学校も学びやすい雰囲気の中で授業を進めているということが分かります。

学校質問紙の2です。この調査は令和3年度からの項目になりますので1、2のデータがありませんが、「学校の宿題に加え補充のための学習発展的な問題に児童生徒が自ら取り組める工夫をしていますか」については小学校11校、中学校3校中、積極肯定のみで見ると、小学校が3校、中学校が1校ということで家庭学習への先生方、学校のアプローチが不足しているということが分かります。

まとめとしては、アをご覧ください、授業については子どもの意欲が年々高まっており、学校の組織的な対応に対する子どもたちの満足度も高いものとなっております。イをご覧ください。学校の授業改善の取組の成果が出ていますと捉えております。ウ・エをご覧ください。その一方で、家庭学習の取組については、子どもの意識や意欲は十分とは言えない状況にあり、学校としてもこのアプローチが不十分との認識を持っています。授業内容と連動した家庭学習の取組が実施できるよう改善を図っていくことが、市全体の喫緊の課題であると認識しております。

今後の方向性の一つ目ですが、授業と家庭学習の連動の強化ということで、授業と家庭学習、夏休みや冬休みのような長期休業の課題、この連続性をどのように高めていくかなどについて市の教育研究所の学力向上部会で現在検討を進めていきます。そして授業と家庭学習の連動の好事例についての共有を図ることとしています。

二つ目です。ICT等を活用した「個別最適な学び」の推進です。一人一台端末の持ち帰りについて、ICT教育部会で現在検討を進めており、年度内に持ち帰り学習を実現することとしています。家庭での個別学習に活用できるAIドリルなどの導入についても検討を進めているところであります。GIGAスクールで整備した一人一台端末は、授業内で積極的に活用が図られておりますので、これを今度は家庭にも持ち帰りながら個別最適な学びを実現していく、そして、子どもたちをあと一歩確実に伸ばしていくというのが、これからの取組の方向性になります。

○教育部長

この後、G I G Aスクールの活用の状況を映像で紹介させていただきます。

【映像を放送】

○市長

以上でよろしいですか。それでは、学力向上とG I G Aスクールについて、担当から説明がありましたので議論を進めたいと思います。活発なご意見をいただきたいと思います。はい、藤山委員お願いします。

○藤山重理子委員

確認ですが、一人一台のタブレットを学校に導入されたなかで、全校生徒がタブレットを使ったときに、万が一通信障害などの不具合などが遠野市で起きているかどうか教えてください。

○教育部長

遠野市では、2,100台を児童生徒、教職員等含めて導入しております。インターネットについては、遠野テレビのインターネット回線を光ファイバーで結んでいるというような状況です。遠野テレビは、加入者が3500人ぐらいのインターネットの加入があります。

夜は、通信トラフィックが大幅に増えますが日中はそれほど使われていないので、そのリソースを学校の教育に使わせていただきたいということで、このような仕組みとしております。先日、遠野テレビの技術の職員に聞いてみたところ、現時点でトラフィックが増加し通信が制限される利用状況には至っていない。十分余裕があるという話をいただいております。

○市長

はい、ありがとうございます。
菊池崇委員お願いします。

○菊池崇委員

先日、教育委員のオンライン分科会というものに参加しまして、分科会5名の中で、令和の日本型学校教育について議論しました。その中のメインの議題がG I G Aスクール構想ということで、お互いの市町村において今現在どのような感じになっているのかということを発表しました。早いところでは、京都の方でしたが既に一人一台タブレットを持ち帰り、ポケットW i - F iを利用して、一人一台でオンライン授業を行っているというところがありました。関西は、特にコロナ禍で学校にしばらく行けないという状況がありましたので、当市よりも非常に進んでいると思いました。一方で、他の市町では小学校の高学年にしか行き渡っていないというところもございました。遠野市は、今年の3月に全児童生徒に一人一台配布しているので早い方だと思いました。また、授業を見学する機会があり、授業の中でもタブレットが使われ、非常にスムーズに授業が行われている姿に驚かされたところでもあります。今まで無くても授業ができたところにタブレットを取り入れ

たことで、みんなで情報共有しながら、しかも能率的、効率的に授業を進めていくというところにGIGAスクール構想のあり方があると思って見ておりました。

そこで、このタブレットを使った教育は、これからの社会に絶対必要なものになってくると思います。遠野市においては、授業を見ても非常に効率的で生徒一人一人が集中して取り組んでいるというのが分かりますが、先程この資料の最後にありました家庭学習については、なかなか意欲が十分ではないという分析結果が出ております。この辺のフォローアップや取り組み方について、今後どうしていくかというところをお聞きします。

○市長

ありがとうございます。説明をお願いします。

○学校教育課長

今後の家庭学習ですが、現在は学校からドリルやプリント等の一斉課題が出ております。子どもたちの中には、すぐできる子もいますし、最後まで取り組めずに終わる子もいますので、個別最適な学びに十分対応しているかと問われると、そうとは言えない現状です。では、それに対応しようと考え、例えば、習熟度別に3種類ぐらいの課題を作るとなると先生方の負担も増えますし、できなかった子どもたちをそのままにはできないので、個別に指導するとなった時には、そこにも時間を要することになります。仮に、先程お話ししましたタブレットにドリル型のソフトやアプリを入れたものを活用し、どんどん問題を解かせることができれば、間違った時にはもう一度同様の問題が出てくる、出来た時には、応用問題など、次の問題が出てくるというように、自動的に学習を進めることができるようになります。様々な種類の問題をたくさん解くことができ、子ども一人一人の力に応じた学習が進められるというメリットがあると思います。そうなった時には、先生方の負担もなく、取り組むことができるという期待を寄せております。

これまでどおり、たくさん書く、読むといったいわゆるアナログ的な学習についても、継続していくところであります。

○菊池崇委員

タブレットを家に持ち帰ってというところですが、今日の新聞でよく読まれた本というので「スマホ脳」という本が第1位になったということで岩手日報に載っておりました。その辺に関しては、まだ分析されていないところもあります。ただ、家に帰って子どもたちがスマホやタブレットに向き合う時間は少なからずあると思うので、その限られた時間の中でタブレットにより学習ドリルを行うことは、非常に良いことだと思います。また、タブレットを持ち帰るというルール作りは、先生方で委員会を立ち上げ検討しておりますので、きちんと規則を決めて、家庭においては規則を守る。例えば、タブレットを自分の部屋でやると宿題をやっているのかゲームをやっているのか分からないので、リビングでやるといったルール決めも含めて、家庭学習、学力向上に向けて取り組んでいただきたいと考えております。以上です。

○市長

ほかにございませんか。

学力向上とG I G Aスクールというテーマですので、G I G Aスクールの良いところが学力向上に効率よく繋がっているのかという点も一つ視野に入れてご意見をいただければと思います。

千田委員お願いします。

○千田由美子委員

意見になります。分かりやすい授業が一番いいと思いますが、その分かりやすい授業というのが、ある意味、主体的な学習というものを奪っているのではないかと私個人は思っております。分かってしまいそこで完結してしまうということは、「次にもっと調べたい」、「これどうなんだろう」というところに繋がっていかないのが、家庭学習が足りないところに繋がっているのではないかとこの資料を見て思ったところです。

それは、これからタブレットを持ち帰って、効率良く学習できるというところで改善されていくのかなと思います。また、先生だけが頑張るのではなくて、各家庭との連携が必要になってくるのではないかと思うところです。

今の子どもたちは、本当に忙しいのです。スポーツをしなければならない。勉強をしなければならない。本を読まなければならない。本当に忙しい子どもたちを私達大人に例えるならば、家に帰っていろいろな仕事をやりなさいと言われていたようなもので、子どもたちがその限られた時間で一生懸命家に帰っても勉強し、本を読んで、週に何日かスポーツもしなければいけないという重い負担を抱えていると思うと、このG I G Aスクールというのはある意味、そのような時間の解消や効率化に繋がっていくのではないかと私個人は思っています。保護者負担で考えると子どもが勉強をしている見張りをしなくていい、ドリル等の経費負担も軽減されるというのは、非常に効率が良いと思います。これからもっと改善されていくものと思っております。学力向上については、来年はこの倍ぐらいに上がっていただければいいなと願っております。以上です。

○市長

ありがとうございます。かなり改善されてきている。効果が出てきているというふうなお話であったと思います。

菊池和子委員お願いします。

○菊池和子委員

G I G Aスクールと学力向上という面で一番注視したいなと思うのは、基礎的な学力、どの子にもつきたい学力をきちんと補償してあげる。いろいろな職業の選択や進路といった将来の選択ができるような環境を作ってあげることが大切ではないかと私は思います。ICTを活用して基本的な力をたくさんつけてあげるとのこと。それは凄くいいことだと思いますし、見ただけで出来ない子も耳から聞けば出来るというバリアフリー的な考え方もこの中に含まれているのではないかと思います。

ただ、教育の中で最低限の学びと自分から進んで興味を持ったりするような学びをうまく融合させていくことが、これからの課題になるのではないかと思います。道端で花を見

てきれいだと感じたり摘んだり、雪の上をわざと歩いたりというような一件無駄に見えるような行動も、子どもたちの成長には凄く大事なことだと思うので、そういうことをうまく融合できるよう、ICT化により効率的ということも大事ですが、そのようなこととの融合を遠野市は考えていけばいいと思います。

○市長

ありがとうございます。非常に大事なご意見だと思います。自発的でなければいけないし、興味を持たなければいけない。それがいろいろなことと融合していった基礎的なことをしっかり補うようにつかえるのがGIGAスクールである。いいお話だったと思いますほかにございませんか。

はい、藤山委員お願いします。

○藤山重理子委員

資料8ページのところで、知能から期待される学力を発揮している児童生徒の割合の一番下のところで、この発揮できない児童生徒をゼロにすることを目指して授業改善などに取り組んでいるということで、遠野市としての取り組みを少しご紹介いただきたいと思います。

○市長

はい、学校教育課長お願いします。

○学校教育課長

現在、アンダーアチーバーの子どもたちが各学校には何人かいる状況ですので、各学校ともこのアンダーアチーバーをゼロにするという目標を掲げながら、共通して取り組んでいるところであります。

具体的にどのような取り組みをしているのかといいますと、学校では放課後や授業以外の時間にもその子どもに個別指導を行ったりしております。ただ、たくさんの課題をやらせるということではなく、どこがわからないのかを把握した上で、個に応じた支援を行ったり、課題を変えて取り組ませたりして、出来たら次のステップに進むといった指導の工夫をしていると聞いております。

○市長

はい、いかがですか。

○藤山重理子委員

家庭に帰った時に学習できないような環境とかが、もしかしたら背景にあるかもしれないので、普段携わっている先生の方で、もし気づいた点とかがあれば、事件や事故になる前に未然に防げるところもあると思います。家庭の中に入っていくところは難しい部分もあるかもしれませんが、そういったところも解消に繋がっていけば良いのかなと考えました。

○市長

ありがとうございます。

家庭って大事ですよ。能力はあるが能力が発揮されていないということなので、可能性が凄くあるというふうに考えていけば伸びる可能性があるんで、そこを伸ばしてあげる家庭環境が大事だっていうことですね。

○千田由美子委員

G I G Aスクールはコロナ感染症により、かなり前倒しになってこの1年で授業でも使えるぐらい進んだわけですが、それは先生の努力はもちろん、それを支えるコロナ対策のスクールサポートスタッフの方たちがいなかったら、先生たちがコロナ対策までやらなければいけない状況でした。現在は落ち着いていますが油断できない状況にあると思いますので、学校の先生の多忙化を防ぐためにもスクールサポートスタッフの配置は今後も市として続けていただけたらありがたいです。以上です。

○市長

非常にいいご意見だと思います。いろいろ考えていかなければいけないところだと思います。どんだんご提案いただければと思います。

ほかにごきませんか。無いようですので10分間休憩いたします。

【休憩：10分間】

(2) コミュニティ・スクールの推進について

○市長

それでは、再開いたします。

次に(2)のコミュニティ・スクールの推進について担当の説明をお願いします。

○市民センター所長

市民センター新田です。

コミュニティスクールの推進について説明をいたします。

遠野市教育委員会では、来年度当初からの導入を目指し、今年度はその体制作り、制度づくりを進めています。コミュニティスクール学校運営協議会は、学校と地域住民等が力を合わせて、学校の運営に取り組むことが可能となる地域と共にある学校への転換を図るための有効な仕組みとされています。

コミュニティスクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていきます。背景は法律の改正があります。平成29年4月1日施行の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に学校運営協議会の設置の努力義務化が規定されました。

一方、遠野市教育委員会ではこれまで、各地区に地域教育協議会を設置し、学校と地域が協力して子どもたちを育てる環境づくりに取り組んできました。

地域教育協議会は、岩手県独自の教育振興運動の遠野市の実践区です。平成14年度から各町に地域教育協議会を設置し、現在、市内小学校区11カ所に組織され、学校の外部評価などの役割を担っています。

これらのことを踏まえ、令和4年4月からの体制です。コミュニティスクール学校運営協議会は、3中学校に設置いたします。コミュニティスクールの中に小学校部会を設置いたします。地域はコミュニティスクールの協議の場に参加いたします。新たにコーディネーターを配置します。コーディネーターは、コミュニティスクール小学校部会、地域を繋ぐ役割を担います。

詳細について、朝倉課長から説明いたします。

○生涯学習スポーツ課長

生涯学習スポーツ課長の朝倉と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、資料の表の下段になりますが「2. これまでの取り組みと今後の見通し」をご覧ください。

故郷の文化を生かし夢と誇りを育む学びのまちの実現のために、令和3年度は準備の年、令和4年度は試行の年、令和5年度から本格実施の年、というふうを考えてございます。

令和3年度につきましては、ただ今所長が説明したとおりです。

令和4年度は、各学校の学びフェストの承認、外部評価のほか、令和2年度に作成した遠野市キャリアパスポートですがこちらは小中高を貫いたふるさと教育を地域の協力を得ながら進めることで児童生徒のキャリア形成を図り、未来を創造する人材育成を目的に作られたものです。この遠野市キャリアパスポートを基に学校と地域がやってみることを共有してまいります。

令和5年度以降は、令和4年度の取り組みに加えまして、中学校区として知徳体のバランスの取れた人間形成のため、中学校区としての学びフェストを承認し実行するという取り組みが加わります。

裏面をご覧ください。遠野市のコミュニティスクールの体制につきましては、先程、所長が説明しておりますが、私の方からは遠野中学校区の学校運営協議会を例として説明させていただきます。

子どもたちの9年間の育ちを見据えて設置することから、この協議会では遠野中、遠野小、遠野北小、綾織小、附馬牛小学校の学びフェストの承認と学校評価を行います。さらに令和4年度はキャリアパスポートによる学校と地域が連携して取り組みたいことを共有します。委員は16名以内と想定しております。4つの小学校部会は、それぞれの小学校の学びフェスト、学校評価の素案についての協議、例えば、遠野小学校部会では、遠野の里の物語、遠野北小部会では薬研太鼓など、それぞれ小学校独自に取り組みたいことについてもこの小学校部会で協議いたします。委員は9名以内を想定してございます。

そして、地域です。地域は、学校運営協議会の決定や小学校部会で、協議されたことが実践できるように学校と共に取り組む応援団。さらに、学校に対する要望を取りまとめる組織となります。現状では、地域教育協議会と地域運営組織の構成員が重複しており、負

担感のみが優先してしまう地域もあることから、今後、地域の実情に合わせて組織を一つにすることも検討しております。

そして、全てに関わってくるエリアコーディネーターです。学校と地域を繋ぐ役割を担うのがエリアコーディネーターです。エリアコーディネーターは、遠野中学校学区学校運営協議会の委員であり、4つの小学校部会の委員にもなります。また、地域の会議に出席し、学校経営の方針を伝えたり、地域の要望を整理し、逆に学校運営協議会や小学校部会で提案したりもします。このコーディネーターは、国の補助金制度を活用し、各中学校区に1名、計3名の任用を検討しております。

簡単ですが、以上で説明を終わらせていただきます。

○市長

はい、ありがとうございます。それでは皆さん活発な議論、ご意見をお願いします。

○千田由美子委員

来年度が試行の年、今年度は準備の年となっておりますが、どこまで決まっていますかという疑問が湧いたのですが、その辺を詳しく教えていただけますでしょうか。

○生涯学習スポーツ課長

来年度から学校運営協議会の活動が始まる予定で現在準備を進めております。各関係者への制度の周知や研修につきましては今年度に始めており、今後の予定としまして1月に地域で子どもを育てる発表会がございますが、そちらで学校、PTA、地域の皆様を一同に会し、今まで行ってきた取り組みや今後の方針について説明する機会にしたいと考えております。スタートは来年の4月です。

○市長

千田委員、どうぞ。

○千田由美子委員

1月に地域の皆様も含めて説明するということでしたが、地域でこれをやりたい、やらせたいというところまで進んでいるのでしょうか。

○市長

朝倉課長、お願いします。

○生涯学習スポーツ課長

現状ですが、地域によっては地域の子どもの関わる組織が2つ3つあるという現状ですので、今年度中に地域の実情に合わせた組織に整理します。2つ組織があるところは、2つ残るところ、1つにまとめるところもあるかと思えます。まずは地域の組織を整備すること。地域がやりたいということにつきましては、来年度早々に行うということは想定してございません。来年度につきましては、キャリアパスポートを基に今も行っている地域

の皆様講師として参画いただく等、そういう部分から地域の方々の活動については行っていきたいと考えております。

○市長

はい、ありがとうございます。菊池崇委員お願いします。

○菊池崇委員

コミュニティスクールについて私もよくわかっていない部分がありましたので調べましたが、岩手県内では16市町村中73校で導入、16.4%だったと思いますが、来年度中には県内全ての市町村でコミュニティスクールを導入する予定であると私が見たページに書いていました。遠野市では、今準備段階ということで来年度中に全てやるということではないという理解でよろしいでしょうか。

○生涯学習スポーツ課長

来年度から市内全ての小中学校に学校運営協議会を設置し、スタートいたします。

○教育長

私から補足をさせていただきます。

これは法により、学校運営協議会を学校に設置しなさいということでスタートしていません。県の教育委員会では、平成29年にこれは努力義務ではあるが義務化されるものだから、5年間猶予がある中で準備を進めて下さいということでスタートしたものです。

先程のスライドの2番にこれまでの取り組みと今後の見通しとありましたが、令和元年度に地区センターの所長が集まった会議で学校運営協議会というものが始まりますという情報提供を元年度から進めてきたところです。

2年度目にキャリアパスポートという単語が出てきます。これは何かというと小学校、中学校、高校では子どもたちの体験活動があるのですが、小学校と中学校はふるさと教育というものを各学校でやっており、それに基づいて体験活動を行っています。この体験活動とは、キャリア教育といわれるものです。遠野市においては、キャリア教育を小学校から高校まで既にやっております。ただ、やっておりますが体系化できていないので、それをまとめたものがキャリアパスポートとなります。つまり、義務教育9年間或いは高校までの12年間で、こういうふうに遠野市ではキャリア教育の観点で子どもたちを育てて行きたいというものができたのが令和2年度です。

次は、令和3年度の話をしていきます。制度、組織も含め、学校も地域もよく理解されていない面が多かったため、今その周知をどう活動をするのかということを含め、例示しながら進めているところです。具体的にお話しますと地域教育協議会というものがあります。この性格は学校の応援団です。学校はそこに相談しながら、また地区に相談しながら体験活動をやってきました。今まででもあったものです。ただ、この方法が整備されることにより、もう少し組織を整理した方が良いのではないかと。その一つとして、例えば同じ方が複数の組織に行き、同じような会議を3回も4回もやるのはどうかという地域の方の声が聞こえてきます。それから、学校からすれば先生方が変わります。遠野在

住の先生でない方もいるわけです。地域のことが分からないけれど誰に相談すればいいんだろうということも出てくるわけです。そういうところをうまく整理できないかというのがコミュニティスクールの発想になります。

資料の裏面になりますが組織図があります。この組織は、まだ決定したものではありません。まず、学校の方でいうと遠野中学校区の学校運営協議会に小学校の部会があります。この学校運営協議会が決定機関です。部会はこのことを提案しましょうということを協議するところで、それを持って中学校区の運営協議会で決定して承認してもらい、そして、評価をしていくというような一連の活動が出てくるわけです。地教協まちづくり協議会等がありますが、そちらの方では推進しやすいような組織改編をしてもいいもので、その地域の実態に応じて大きい組織もあれば小さい組織もあるわけですから、統合してもいいですし、別々でもいいです。ただし、こういう決まった組織で進めていきますということになります。

来年度が試行の年というのは、先程申し上げたキャリアパスポート12年間のスタートがあり体験活動があって、今までも依頼などをしてきたわけです。それで動き方を覚えるのが来年度の試行というイメージです。実際に知・徳・体の教育を目指すところでもありますので、知・徳・体も含めて実施していくのが令和5年度というのがこの構想の全体となっております。

○市長

分かりやすい説明だったと思います。結局、イメージがわからないということですよね。イメージをしっかりと作る。いろんな地域によって特徴があるわけだから、その地域の個性もあるし文化もある。この辺をある意味、自由にやっていけるというのがコミュニティスクールの中にあるのだらうと思います。地域も行政も学校も一緒になってやっていく。任せきりにしない。みんなでやる。ということなのです。その体系の作り方ということですが、ある意味自由、想像的にやっていいですよというイメージが無い。これを1月から説明をしていく中で、イメージづくりや皆さんにわかりやすいようにしていく。その中でさらに議論していく。気を付けなければいけないのは、組織とかというものがこの中で大きく見えていますから形骸化してしまう。組織があって会議はするけど、それがどういふふうなアクションに繋がるのかというのが見えないと全然意味がないということになっていく。これをしっかりとアクションの伴った体系にするためには、そのやり方を各地域で考えてもいいと思います。例えば、やることのテーマ、このようにしましょうということを作って、それに対してみんなが取り組んでいく、走りながら作っていくという方法もあるし、地域で取り組む方向を一つ決めて、それをやりながら進めていく方法もあると思うし、やり方に特徴が出て私はいいいと思います。いろんなものに当てはめ過ぎていって、こうでなければいけませんよという形にならないようにしながら、子どもたちを育てるとというのがコミュニティスクールの特徴だと思います。そこのところを担当課は、市民の方々、地域の方々にわかるようなイメージ作り、説明が必要であります。

教育長が先ほど言ったなかで、遠野は今まで地域でやっていた。コミュニティスクールを今までやっていた。というところもありました。それがこういう形になってきたと捉えると少し分かりやすいかもしれません。それをさらに力を入れてやっていく、やりやすい

ようにみんなで協力しながらやっていくというのがコミュニティスクールです。当初のスタートはみんなで考えて、進んでみるということによろしいですか。

○教育長

おっしゃるとおりです。お互いにWIN-WINの関係になるという組織にしないといけませんし、そして目的というものは不断に次から次へと変わっていくので、例年、前年踏襲というのは基本ないと考えます。次から次へと変わっていく課題を見つけるために、この運営協議会で承認、決定、評価してここが良かったけどここは駄目だった。この駄目だったことをやってみるという形で次の年に向かうというふうになっていく。

行政の話を見せてもらいますと、ここにつきましては生涯学習スポーツ課を中心として、学校教育課、市民協働課の三課が連携して会議を3回ほど持ちました。より良い姿となるよう今取り組んでいるという状況でございます。

○市長

そういうことだそうですね。要するに見えるようにして、わかりやすく進めていくということ意識している。これを実際にそのようにしていく。さらに、もう少し理解を深める努力をする議論をする場を作るといったことは必要だと思いますので、そういう場を作りながら、みんなで一緒に作っていくというふうに考えていただければいいと思います。

○千田由美子委員

大体分かりました。確かに遠野では地域で見守るということは今までやってきたというのはあります。ただ、地域格差が生まれてもいけないと思いますので、形骸化しているところではなく皆さんの地域であると思いますので、地域格差が生まれないためにガイドラインとかも必要かと思います。

「子育てするなら遠野」という言葉があるとおり、「子育てするなら遠野」とは何なのかと聞かれたときに、皆さんが答えられるようにしておかないといけないわけで、私も保護者の方から何度か「子育てするなら遠野ってなんなの」と聞かれて答えられなかったです。これを核としてみんなが共通認識し、子育てするなら遠野というところにゴールを置き、落としどころをつけておかないと形骸化していく恐れがあると思います。その辺の共通認識をもっと深堀させて、もっと協議する必要があるのではないかと思います。以上です。

○菊池崇委員

先程、教育長から地域と学校がWIN-WINの関係になるためのものだという話があって私も非常に賛成です。また、子どもたちは地域の中で育てられており、地域を愛するという点でも非常に良いことだと思います。

地域の中で、特に高齢の方がタブレットやそのような機器を使うのが苦手ですが、そのことに関してもフォローアップができたりしないか。そういうこともできると思うのでいい取り組みだと思います。

今この場で、この位長くコミュニティスクールのお話を聞いて理解しましたが、これを一般市民の方々に分かっていただくということは非常に難しいと思うので、ある程度の形、落としどころが見えてこない、どうしていいかわからないと思います。それこそ熟議という言葉がありますが、コミュニティスクールをやる時にプラスの方向で話し合いましょうということは非常に良いことだと思います。時間をかけていいものを作り上げる、地域に合ったものを作り上げるというのは凄く良いことで、議論した人たちには分かるのですが、そこに行きつけた人が、ほかの人や地域に伝えるというのはなかなか難しいのではないかと思います。具体例が見えた方が具体的に動きやすいのではないかと思います。それぞれの地域は全然違うし、それを話し合い1年で作るというのは、時間がかかりすぎるのではないかと思います。意見になります。

○市長

はい、ありがとうございます。

一つの例題を、一つのプランを、みんなでアクションを起こすというのがそういうことだと思うので、そういうことも含めて教育って難しいことじゃないですか。今、菊池崇委員がお話したようにこのことも凄く難しいことです。スケジュールどおりの進め方ではいいものができていかない。職員の人たちは真面目だからしっかり仕事をしてくれるので、そういうふうにしていこうと努力するはずですが、中身をしっかりと整えながら、無理矢理、焦りすぎないでみんなで理解しながら進めるべきものだと思います。そののところを十分にみんなで理解し合いながら進めていただきたいなと思います。

時間がないので進めさせていただきます。

(3) こども本の森構想の推進について

○市長

次に3のこども本の森構想の推進について担当から説明をお願いします。

○こども本の森運営企画室長

こども本の森運営企画室長の佐々木です。

資料No.4により、こども本の森遠野についてご説明いたします。

2ページをご覧ください。おかげさまで7月25日には、沿岸地域の小学生と市内小学生21人で夢と希望の呼びかけメッセージなど、子どもが主役のセレモニーを開催しオープンさせていただきました。

3ページには、こども本の森のキャラクターですが、市内小学生から愛称を募集し決定したところです。非常に子どもたちに人気のあるキャラクターとなっております。

続いて4ページと5ページですが、改めて本の森のコンセプトですが、安藤先生はどこかに復興のシンボルを作りたいとの思いから、日本文化の原点でもあり、遠野物語が今もなお息づいている遠野の里を選んで下さいました。また、子どもたちがしっかりと本を読む場として古民家を活用し、旧三田屋の外観を残しながら作って下さったものです。市と

してもICTを活用した確かな学力の育成と併せて豊かな心を育む居場所の一つとして、こども本の森構想を位置づけたところです。

続いて6ページの経過になりますが、こちらについては、時間の関係上省略させていただきます。

7ページの運営体制についてですが、オープンしてから順調に進んでいます。教育文化振興財団、そして遠野市保育協会と連携し、それぞれ定例会議を開催する仕組みも構築し、日々ブラッシュアップしています。手探り状態から始めましたがスタッフは1日3人から4人での対応で充足しているところです。

それから、8ページ及び9ページになりますが、施設の概要です。いちの蔵については、貸し切りも可能で駐車場は13台設置しているところです。

続いて10ページご覧ください。本の寄贈についてはこれまで18,420冊、そして配架冊数については、約13,000の蔵書となります。寄付募集額につきましては3,600万円を超える額になっております。

11ページになります。育てる会についてです。7月24日に発足し、現在会員74名です。これまで、会報を6回発行して本の森の様子についてお知らせしています。また今後は、会員を募集し懇談会も開催する予定です。

続いて12ページ。こちらは利用状況です。オープンから11月23日までの状況ですが、来館者計9,647人となりました。全体平均ですと1日92人となっています。内訳は市内が37%、そして県内が53%、県外が10%となっています。昨日28日ですが、目標とする来館者1万人に達成いたしました。今年度の目標1万人は4カ月のところで達成したというところになります。1万人目は山田町の小学4年生の女の子でしたがなんと3回目の来館だったということで、非常によかったなと思っております。

それから、13ページにつきましては市内の教育施設の来館状況をまとめています。児童館への取り組みとして、市のマイクロバスを運行してご来館いただいている状況です。また、市外小中学校の修学旅行としても大勢の方にご来館いただいておりますので参考資料とさせていただきます。

14ページですが、遠野高校のプロジェクトについてです。生徒さん方には図書の配架整理、それからグループワークによりイベントを企画、実施を今後予定しております。

16ページの方をお願いいたします。イベントの実施状況と今後の予定になります。子どもたちが主役でありますので、先日は子どもスタッフ養成講座を2日間開催しました。参加者9人でそれぞれに修了証を交付したところです。早速、昨日1名がこどもスタッフとして1時間半位従事してくれたところがございます。また、読み聞かせについては、児童だけではなくご来館いただいた高齢者、デイサービスセンターの皆様へも随時行っておりまして、高齢者と子どもの世代を超えた空間となっている状況です。

17ページは情報発信についてまとめております。県内の全市町村教育委員会を訪問してPRをさせていただきました。加えて本日お配りしておりますタブロイド版を作成いたしまして、県内の全小学生に約7万部を配布したところです。功を奏して、特にも土曜、日曜は市外からの親子連れが多く満員の状況でございます。

そこで19ページです。本日の協議をお願いしたいところです。こども本の森遠野は、子どもたちの夢と希望であり想像力と創造力を育む空間です。寄付者である安藤忠雄先生か

らは、過去を学び、今を考え、未来を想像してほしいというメッセージをいただいております。また、先日20日の講演会では、生まれ変わると題して一人一人の心の世界が大事であり、多様な生活の中で、地球規模で考えて欲しい。そういったメッセージも頂戴いたしました。そこで、こども本の森遠野は、グローバルな視点で人材育成を図るためには、どのような方法があるか非常に大きな課題でございますけれども、本日は皆様にご意見をいただきたいところでございます。よろしくお願いいたします。以上です。

○市長

お一人ずつご意見をいただきます。菊池崇委員からお願いします。

○菊池崇委員

グローバルな視点での人材育成ということで、それには大人が子どもに対してどういった環境をきちんと整備できるかということだと思います。以前、開催されたオンラインの教育委員会議の場で他の教育長の方から、グローバル教育とはどういうものかという質疑もされたところでありました。その中でその教育長の方は、やはり語学力が非常に大切ではないかという話をされ、非常に大切なことだと思います。英語或いは外国語を話すことでいろいろな世界が開けると思いますが、私はその国の文化とか、例えば宗教、地域性といったそういうところを学ぶことによって興味が湧き、言葉を学んでいくのではないかと考えておりました。例えば、こども本の森というのは、いろいろな本がありますので、その本を読むことでその国に対して非常に興味が出てくると考えれば、非常にいい施設であると思います。他に大人が地球規模で何かを考えるとすれば、そういう環境作りや直に体験できるというものを考えてもいいですし、いろんな方法で遠野にいても外国と触れ合える、遠野にいても外に出られる、そういう環境作りをいろいろ考えてみてはいいのではないかなと思いますし、大人がそういうところを作ってあげればいいのかと思います。

○市長

ありがとうございます。いいお話でした。藤山委員お願いします。

○藤山重理子委員

グローバルな人材育成というところで、こども本の森遠野がすごく遠野にとって魅力的な一部分になってきているので、これを維持できるよう運営も考えていかなければいけないのかなと思います。実際に子どもが本に触れ合うとすごくいい表情で本を読んだり、子どもが体験することで学んでいる部分が多いので、たくさん子どもに足を運んでもらえるよう情報発信の取り組みが一層必要になってくると思います。

○市長

はい、ありがとうございます。それでは、菊池和子委員お願いします。

○菊池和子委員

大きい課題と思いながら考えましたが、子どもたちの心が開かれるそういう場所であって欲しいと願っています。子どもたちは遠野市がブラインドサッカーのホストタウンだったということでいろいろな学びをしました。そういうことと一緒に何かできるようなそういう場所であって欲しいと思います。子どもたちの心が解放される場作りをここでは、やって欲しいというふうに思っています。

○千田由美子委員

資料の最初の方で復興拠点とあったのが、最後のページでグローバル人材育成の拠点となっています。そこまでの経過はどうしてだろうと思ったところです。本を通してグローバルな視点を持たせたいのかなというところで解釈しました。気になる場所として、市内の子どもたちの来館がまだ 37%ということで、せっかく遠野市に安藤先生という世界的建築家が建ててくださった建物ですので、できれば市内ファーストであってほしいです。県外とかにいろいろPRするのはいいのですが、できれば市内の人たちがもっとこの施設を知れたらいいなと思ったところです。本の森ということで、町ごと本の町っていうふうに展開できないのかなと思いました。観光施設とかに図書コーナーを作り、少しでいいので本を置いてみたり、遠野市全体が本の町とするのはどうかと思います。それによりどんどん子どもたちの視野が広がっていくのかなあとと思います。本に出会うという事は、知能を伸ばすのにいいと聞きますので、是非これからも活用していただきたいと思います。以上です。

○市長

ありがとうございます。いいご意見いただきました。共有していきたいと思います。

(4) 子育て支援の推進について

○市長

進めさせていただきます。次に(4)の子育て支援の推進について担当から説明させていただきます。

○子育て応援部長

子育て応援部長の磯谷です。

私からは、子育て支援の推進というテーマで児童館の施設整備事業について説明させていただきます。

この事業は、老朽化が進む児童館、児童クラブの計画的な改修等整備を行い、子どもの健全な心身の育成を図るとともに、保護者の子育てと就労の両立を支援する事業となっております。小さな拠点の整備に合わせまして、子どもが放課後において健全に過ごすことができる居場所の充実を図るため、児童クラブの改修工事を実施していくものです。地区センター内に児童クラブが設置されており、改修工事により環境面の改善が図られています。運用面における今後における地域コミュニティとの関わり方など、さらに魅力ある児童クラブにするためのご意見をいただきたいと思います。

現時点における具体的内容は、村上課長が説明いたします。

○こども政策課長

こども政策課の村上です。

土淵児童クラブでございますが、今年度土淵地区センター改修工事と合わせまして、現在改修工事を実施しているところでございます。主な工事内容といたしましては、活動室を以前は畳敷きでしたが、フローリングに張り替えました。児童クラブの先生方のご意見をいただきながらフローリング張りにしております。活動室の天井壁等も暗いイメージでありましたので、こちらは貼り替えて明るくなるように変えております。照明についても和室の照明器具でしたが、こちらも部屋の設えに合わせて照明を更新しているところで、男女のトイレの改修、手洗い場の改修、活動室と事務室のエアコンの設置を進めておりまして、大部分の工事は終盤に来ております。工期につきましては、令和4年1月17日までを予定しているところでございます。

小友児童クラブ、達曽部児童クラブにつきましては、今年度実施設計を地区センターの改修設計と併せ行っており、順次、準備を進めているところでございます。令和4年度からは、計画的に達曽部児童クラブ、小友児童クラブの改修工事を進めていく予定としております。以上でございます。

○市長

ありがとうございます。皆さんから質問等ございますか。

担当課の方から説明がありましたが、それ以外に白岩児童館も整備が必要ですし、保育園も変えていかなければいけないというところに来ています。さらに進化させた形で担当課がプランニングしておりますので、より良い形で子育て支援が進むと思いますのでご期待いただければと思います。

菊池和子委員お願いします。

○菊池和子委員

改修とか施設の整備をやっていただき、すごくありがたいなと先生方は思っていると思います。その上でお願いしたいことは、「子育てするなら遠野」ということに、先ほども話がありましたが、児童館、児童クラブにどういう役割を果たして欲しいのか。そこに行く子どもたちにどういう力をつけるのか。ただ子守りみたいに子供を安全に見るだけではなくて、教育施設ではないですけども、学校、地域と協力して何か力をつけられるのではないかと思います。そういうところの根本となるあたりをこども政策課の方にプランを是非作っていただいて、今あるものをより一層良いものにして欲しいというふうに思います。

○市長

ありがとうございます。それは政策的なところの部分があるので、私がお話しさせていただきます。コミュニティスクールの話をしてきました。遠野の子どもをどういうふうに育てるのか。地域、行政、教育委員会、学校がどうやって育てるのかという大きいテーマ

があります。これらをもう一度現場から、そして父兄の方々、子どもの意見、働く人、先生方の意見を聞きながら、遠野が進むべき方法をしっかりともう一回考えていきたいと思ひます。先ほどいい話をさせていただきました。子育てするなら遠野ってどういうことか。そこに具体的に取組んでいくということを皆さんと一緒に進めていきたいと思ひます。本当に良いご意見いただきました。そのほか、皆様からございましたらよろしくお願ひします。

○市長

しっかりとしたイメージを分かり易く作っていくということが必要だと思ひます。子どもにはいろんな子がいてみんな個性を持っているので、その子たちにしっかりと目を向け、押し付けるだけではなく、その可能性を広げていく教育をできる環境にしていく。英語に関しても何か出来ると自信を持つので、言えないよりは話ができる方がいいだろうと考えれば、いろいろなものができるチャンスに出会える。興味を持ってもらって、自分から進んで取組むことが本当に重要だと思ひます。そういう場を作ることが非常に大事だと思ひます。予算不足だとかいろんな話もあるので遅れているような気はします。子供たちは遠野の大事な宝なので、しっかりと予算もつけるべきですし、何らかの形で工面をして可能性のためにやっていくべきだと思ひています。施設も無理矢理古いものをどうにかして使うというよりは、教育、子ども達の環境にとっていいもの、働きやすい環境を作るとか総合的に考えて進めるべきだと思ひていますので今担当課ともそういう話をいろいろしております。白岩児童館の改修の計画を少し待って下さいというお話しをさせていただいて、今回の補正予算に入れませんでした。それはお金がないからではなくて、もう少し先を見てもっとしっかりと計画を立てさせて下さいという意味の前向きな意味の判断でした。

委員さん方とは、自由に堅苦しくなくお話しする時間をもっと作っていかないといけないなと感じておりました。今日は良いお話をいただいて感謝しております。

まとめになりましたが、これで本日の議長の役目を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○教育部長

はい、ありがとうございました。

それでは、以上を持ちまして令和3年度第1回遠野市総合教育会議を閉会いたします。大変ありがとうございました。

閉会 午後15時30分

会議録作成者 遠野市長 多 田 一 彦

署 名 教 育 長 菊 池 広 親

署 名 教 育 委 員 菊 池 崇

署 名 教 育 委 員 千 田 由 美 子

署 名 教 育 委 員 菊 池 和 子

署 名 教 育 委 員 藤 山 重 理 子